

# 実践報告

第1学年 算数科 単元名：「かさくらべ」  
第2学年 算数科 単元名：「かけ算のきまり」

## 1 研究主題に迫るための具体的な手だてと指導の実際

### (1) THINK（思考）での指導の工夫

#### ①具体物、アレイ図の活用

##### 1年算数科



#### ○どのような工夫をしたか

どちらが多く入るかを比較しやすくするために、2人で1セットずつのペットボトルを用意した。

#### ○どんな効果があったか・児童の変容

実物に触れることで興味関心を高め、ペットボトルの高さや太さの違いを比較しながら考えることができた。

##### 2年算数科



#### ○どのような工夫をしたか

アレイ図を活用し、自分の考えを図に表すようにした。

#### ○どんな効果があったか・児童の変容

どの段のかけ算が使えるのかが分かりやすくなった。自分の考えと友達のを比べ、同じところや違うところを見つけることができた。

#### ②語彙の確認



#### ○どのような工夫をしたか

新出の算数用語について一つずつ確認することで考えるスタートをそろえた。例えば「あふれる」という言葉は、実際に水を注ぎながらあふれる様子を見せて確認した。

#### ○どんな効果があったか・児童の変容

実際に見ることで「あふれる」という言葉の意味を理解し、比べ方の説明や振り返りをする時に使えるようになった。

## (2) OUT PUT (表現) での指導の工夫

### ①話し合い活動での工夫



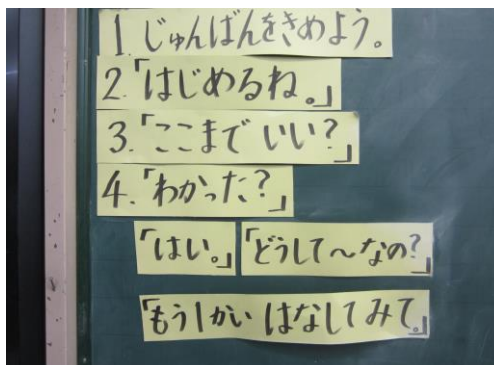
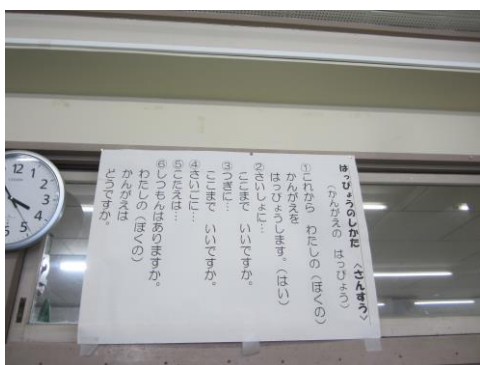
#### ○どのような工夫をしたか

全体で話し合う前に、ペアや 3 人組での話し合いを行うようにした。

#### ○どんな効果があったか・児童の変容

自分の考えを必ず発表することになり、自分の考をもつことにもつながっていた。

### ②話型の提示



#### ○どのような工夫をしたか

ペアで話し合う時や全体で発表する時の話型を作り、教室内に掲示した。相手の話を聞いて返事の仕方も示すことで、発表が一方向的にならないように工夫した。

#### ○どんな効果があったか・児童の変容

カードを参考にしながら、自分が伝えたいことを順番に話すことができた。どのように話したらよいか迷ったときに手助けとなり、話し合いが活発になってきた。

## 3 成果と課題

### 成果

- 児童の生活経験の実態を踏まえ、具体物の活用や語彙の確認をすることで、児童の興味を引き出したり、学習課題をイメージしやすくしたりすることができ、学習意欲の向上につながった。
- 図に表したり、動きで表したり、少人数での話し合いを取り入れたりと様々な形でのアウトプットをしたことで、児童が思考したことを「伝えたい！」と思う手助けとなった。
- 話型を提示したことで、児童が自信をもって話し合いや発表で発言することができた。

### 課題

- 話型を提示したことにより、話型通りに発言しようとしすぎてしまったり、相手の意図を十分に捉えずに反応してしまったりしたことがあったので、話型の言葉や内容、使用する場面について十分に検討する必要がある。
- 児童によって語彙力の差が激しいため、どの言葉でつまずきを感じるのか、実態調査や語彙の確認の仕方をさらに工夫する必要がある。